

グローバル・ナレッジ・ネットワーク(GKN)の事例: ベトナムを使ったオフショア開発プロジェクト

ポイント!
 ・日本語に依存しない。英語で仕事をすることで、海外パートナーの選択肢が増え、仕事のポータビリティが上がる。
 ・UMLは情報の俯瞰のために有効。モデルはプロジェクト管理ツールを使って拠点間で共有することで、バージョンや進捗が可視化できる。

開発の概要	対象製品	:PC管理ツール		使用言語	C++/C			
	開発期間	2008年11月 ~ 2009年9月						
オフショア概要	PCサーバーの機能強化/拡張及び、端末装置開発を東京、京都、ベトナムの三拠点で行う。東京がプロジェクト管理、京都が要件定義/ベトナム発注管理/受け入れテスト、ベトナムが設計、実装、結合テストを担当。 PCサーバーは端末管理情報の管理・設定、端末から入力されるトランザクションデータのタンキング、上位サーバーへのアップロードを分担。PCサーバー自体が上位サーバーとして動作する機能も持つ。 端末装置は運用パラメータをPCサーバーより受け取る事により動作条件を変更しながら運用。異なる動作条件設定された端末装置がネットワークを介してPCサーバへ接続される。 ネットワーク障害発生時端末はスタンドアロンで動作し、ネットワーク復旧後、タンキングされたトランザクションデータをPCサーバーへアップロードする。 情報共有/プロジェクト管理にはREDMINEを使用。							
役割分担		要件定義	基本設計	詳細設計	管理 (スケジュール・品質)	製造(単体テスト含む)	結合テスト	受入テスト
	お客様	●						●
	GKN	●	●	●	●		●	●
オフショア先		●	●	●		●	●	
規模 (単位:人月)		要件定義	基本設計 (アーキテクチャ説明)	レビュー Q&A対応	詳細設計	製造(単体テスト含む)	結合テスト	受入テスト
	お客様							
	GKN		3					2
	オフショア先		4	2	6	15	4	1

UML/オフショア開発向けUML適用ガイドライン(以降、ガイドラインと略す)に関して
 プロジェクト開始時は、存在を知らなかった。
 プロジェクト終了後に知った。ガイドラインは、基本的な考え方がよく整理されており、UML導入時のテンプレートとして使用すれば有効である。

UMLの使用方法

使用した図とタイミング(要件定義~結合テスト)

要件定義/基本設計					
	図名	目的	作成者	効果	工夫した点
GKN/ オフショア	ユースケース図	・既存システムのリバースエンジニアリング ・仕様確認での齟齬発生の防止 ・ドキュメント作成の容易化	GKN:ユースケース図、シーケンス図(一部) オフショア先:シーケンス図	・UML記述で仕様を可視化でき、仕様の認識レベルが向上した。 ・設計書の粒度が統一できた。 ・設計書のレビュー効率向上した。	・全員にUMLツールを配布した。 ・トレーナを設置し、教育した。
	シーケンス図				

詳細設計・製造・結合テスト					
	図名	目的	作成者	効果	工夫した点
オフショア先	クラス図	・ドキュメント作成の容易化 ・ツールによるスケルトンの自動生成	オフショア先	・設計書のレビュー効率が向上した。 ・プログラマーの作業の粒度が統一できた。	同上
	シーケンス図				

UMLの主な成果

- ・UMLが業界で標準化された表記法であるため、仕様を可視化でき、仕様の認識レベルが向上した。
- ・UMLツールのスケルトン自動生成で、設計から制作への一貫性が向上した。

UML使用後の課題

ソースコードとUMLモデルの間の同期は難しく、UMLモデルは全体の俯瞰図的な位置づけに止まる。